10　　船旅の情趣　　　　　　　　　　　　　　文法　連体形その他に接続の助動詞

読解　和歌の内容をつかむ

。曇れる雲なくなりて、、いと㋐おもしろければ、船をだしてぎ行く。

　このあひだに、①雲の上も、海の底も、同じごとくになむありける。むべも、昔の男は、「はつ波の上の月を、舟はふ海の中の空を」とはいひけむ。聞きれに聞けるⓐなり。また  
ある人のよめる歌、

　Ａ　の月の上より漕ぐ舟の棹にさはるはなるらし

これを聞きて、ある人のまたよめⓑる、

　Ｂ　かげ見れば波の底ⓒなるひさかたの空漕ぎわたるわれぞわびしき

　かくいふあひだに、夜やうやく明けゆくに、ら、「黒き雲にはかに出で来ぬ。風吹きぬべし。御船返してむ」といひて船返る。このあひだに、雨降りぬ。いと㋑わびし。

* 語注

昔の男＝中唐の詩人のこと。

穿つ＝突きさす。つらぬく。

圧ふ＝おさえつける。

桂＝中国の伝説で、月の世界に生えているとされた木。

かげ＝光の当たらないところ。影。

ひさかたの＝枕詞。天に関係のある「雨」「月」「雲」「空」「光」「夜」「都」などにかかる。

【原文】

十七日。曇れる雲なくなりて、暁月夜、いとおもしろければ、船を出だして漕ぎ行く。

　このあひだに、雲の上も、海の底も、同じごとくになむありける。むべも、昔の男は、「棹は穿つ波の上の月を、舟は圧ふ海の中の空を」とはいひけむ。聞き戯れに聞けるなり。またある人のよめる歌、

　　水底の月の上より漕ぐ舟の棹にさはるは桂なるらし

これを聞きて、ある人のまたよめる、

　　かげ見れば波の底なるひさかたの空漕ぎわたるわれぞわびしき

　かくいふあひだに、夜やうやく明けゆくに、楫取ら、「黒き雲にはかに出で来ぬ。風吹きぬべし。御船返してむ」といひて船返る。このあひだに、雨降りぬ。いとわびし。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

曇った雲がなくなり、月をでながら〔　　　　〕が詠んだ漢詩をめぐり、〔　　〕の上で歌の掛け合いをする。〔　　〕が明けてゆくにつれ、黒い雲が出てきそうなので、〔　　　　〕によって船は元の所へ〔　　　〕。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ。（終止形でよい。）〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ〜ⓒの文法的意味と活用形を答えよ。〈３点×３〉

ⓐ〔　　　　　〕〔　　　　　〕形　ⓑ〔　　　　　〕〔　　　　　〕形

ⓒ〔　　　　　〕〔　　　　　〕形

問四　チェック問題　〔連体形その他に接続の助動詞〕

⑴次の傍線部の文法的意味と活用形を答えよ。〈１点×２〉

１　和歌・管弦・往生要集ごときの抄物を入れたり。　　　 （方丈記）

２　鏡をすりて世を過ぐす人とありき。　　　　　　　　 （今昔物語集）

１〔　　　　　〕〔　　　　　〕形　２〔　　　　　〕〔　　　　　〕形

⑵次の傍線部の文法的説明として最も適当なものを選べ。〈１点×４〉

１　男もすなるといふものを女もしてみむとてするなり。 　　　　（土佐日記）

２　寺のさまもいとあはれなり。　　　　　　　　　　　 （源氏物語）

３　の火も白き灰がちになりてわろし。　　　　　　　 　　　　（枕草子）

４　また聞けば、侍従の大納言のなくなり給ひぬなり。 　　　　（更級日記）

ア　動詞「なる」の連用形　　イ　ナリ活用形容動詞の一部

ウ　断定の助動詞　　　　　　エ　伝聞・推定の助動詞

１〔　　　　　〕　２〔　　　　　〕　３〔　　　　　〕　４〔　　　　　〕

問五　傍線部①について、

⑴　「同じごとくになむありける」を現代語訳せよ。〈７点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

⑵　どのような様子を述べたものか。二十字以内で具体的に答えよ。〈10点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　和歌Ａ・Ｂについての説明として最も適当なものを選べ。〈10点〉

ア　Ａは、賈島の漢詩の「月」から想起される「桂」を詠み込むことで、歌に深みを持たせている。

イ　Ａは、賈島の漢詩をふまえて、月にあるはずの桂がなぜか邪魔となって船が動かないことを嘆いている。

ウ　Ｂは、賈島の漢詩を引用して「かげ」を入れることで、この後の天候悪化を心配する気持ちを詠んでいる。

エ　Ｂは、賈島の漢詩の「圧ふ」をふまえて、長旅に疲れて沈んだ気持ちを表現している。

〔　　　〕

【解答】

問一　昔の男／船／夜／楫取ら／返る

問二　㋐＝趣深い　㋑＝つらい〈４点×２〉

問三　ⓐ＝断定・終止形　ⓑ＝完了・連体形　ⓒ＝存在・連体形〈３点×３〉

問四　⑴　１＝例示・連体形　２＝断定・連用形〈１点×２〉

　　　⑵　１＝ウ　２＝イ　３＝ア　４＝エ〈１点×４〉

問五　⑴　同じようであった。〈７点〉

　　　⑵　空に浮かぶ月が暗い海に映っている様子。（19字）〈10点〉

問六　ア〈10点〉

【現代語訳】

十七日。曇っている雲がなくなって、夜明け方の月が、大変趣深いので、船を出して漕いで行く。

この時は、雲の上も、海の底も、同じようであった。なるほど、昔の男は（この様子を見て）、「舟の棹は突きさす波の上の月を、舟はおさえつける海に映った空を」と言ったのだろう。（女である私には漢詩がよくわからぬままに）いいかげんに聞いたのである。またある人が詠んだ歌、

水底に映っている月の上を漕ぐ舟の棹にさわるのは、（月の世界に生えているという）桂であるらしい。

これを聞いて、（別の）ある人がまた詠んだ（歌は）、

（水に映る）影を見ると波の底にある空を漕いで渡る我が身は（頼りなくて）つらいことだ。

こう言っている間に、夜がだんだん明けてゆくにつれて、楫取りたちは、「黒い雲が急に出てきた。きっと風が吹くに違いない。（今のうちに）御船を返してしまおう」と言って船は（元の所に）帰る。こうしている間に、雨が降った。大変つらい。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「聞き戯れに聞けるなり」（３行目）とあるが、なぜか。最も適当なものを選べ。

ア　漢詩に興味がなく、昔の詩人をよく知らないから。

イ　月夜に心を奪われ、話を聞いていなかったから。

ウ　漢詩の素養がなく、聞いてもよくわからないから。

エ　自分も和歌を詠まねばならないと焦っていたから。

問２　現代語訳せよ。

①「黒き雲にはかに出で来ぬ」（８行目）

②「風吹きぬべし」（８行目）

問３　「いとわびし」（９行目）とあるが、なぜ「わびし」と感じているのか。次の空欄Ａ～Ｃに適当な語句を入れよ。

（　Ａ　）が「（　Ｂ　）」と言ったとおりに、（　Ｃ　）から。

問４　次の空欄に入る語として適当なものを選べ。

居明かして君をば待たむ（　Ａ　）我が黒髪に霜は降るとも（万葉集）

（　Ｂ　）神代もきかず龍田川からくれなゐに水くくるとは（古今集）

（　Ｃ　）ま弓槻弓年をへてわがせしがごとうるはしみせよ（伊勢物語）

ア　あづさゆみ

イ　ぬばたまの

ウ　からころも

エ　ちはやぶる

【補充問題解答】

問１　ウ

問２　①黒い雲が急に出てきた　②きっと風が吹くに違いない

問３　Ａ＝楫取りたち

Ｂ＝船を返してしまおう。（船を返そう。）

Ｃ＝雨が降ってきた

問４　Ａ＝イ　Ｂ＝エ　Ｃ＝ア